

山高ければ谷深し、谷深ければ山高し ーリーマンショック谷底の思い出ー

中 村 研
(エバ工業株式会社)
取締役社長



はじめに

小生は、エバ工業株式会社という鉄工所のおやじになって40年を超えました。現在では工作機械業界でマシニングセンターパレット交換装置やツール交換装置などの自動化機械を作っています。コロナショックの谷底に落ちて不安になっている企業も多いと思いますが、2008年リーマンショックの谷底に落ち、そしてアフター・リーマンに向かって何をしていたのか振り返ってみました。

リーマンショックとエバ・ベトナム工場

2003年に機械部品供給基地としてベトナム工場を建設し多種類の工程・機械設備を一気に導入したので、混乱していないか心配で毎月のようにベトナム工場を訪問していたのですが、溶接工場レーザー加工機、機械工場NC機械、設計の3DCAD操作など予想以上に上達しそして後輩技術者の育成も順調なので、イケイケどんどんと工場増設、社員も増員し185人になっていました。ところが2008年にアメリカで金融危機いわゆるリーマンショックが発生し、工作機械の受注量は8割ダウンと激減しました。2009年になるとベトナムの同じ工業団地の中で撤退する企業も出てきました。工作機械業界のジェットコースターのような景気上下動に慣れている弊社にとってもその谷の深さは極めて深刻でしたが、今さら帰る気にもならなかったので“山高ければ谷深し、谷深ければ山高し”という昔の言葉を信じ、今日の仕事はないけれど数年で元に戻ると、ここは我慢して次の波に備える決心をしました。ベトナム人先輩社員たちを教師にして全社で訓練に取り組み、溶接資格AWS（アメリカ溶接協会）やNC機械プログラムや3DCAD、塗装技術、日本語検定教育、クレーン操作、フォークリフト運転などのレベルアップに取り組みました。もちろん自宅待機させた社員もいます。

リーマンショックとグローバル企業A社

そのリーマンショックでファイナンス子会社が多額の損失を出したためA社はものづくり事業に回帰するという方針を決定し、経営破たんしたエンロン社から買収した風力発電機部門を拡大するためベトナムに風力発電機用ジェネレーター工場建設を決めました。風力発電機はヨーロッパで成長しましたが、広大な北米でも当初は陸上用、次には洋上用に大きな需要があるという予測があったためです。工場建設予定場所は弊社ベトナム工場と同じ野村ハイフォン

工業団地で2010年に陸上用15メガワットを1000台生産とのうわさでした。2009年4月A社ベトナム法人にヨーロッパから準備チームが派遣されベトナムで活動を開始し、弊社ベトナム工場を訪問するようになりました。何度目かの工場視察後、組立スペースのレンタルとA社ベトナム人作業者を弊社で溶接教育するという要請がありました。当然ですが新工場はできたけれど仕事がなくガランとしていたので要請を受けることにしました。調達グループ監査にてリーマンショックで落ち込んでいるエバ・ベトナムの資金繰り不安を指摘されたので増資しました。日本では労働者が自分の意思で仕事に来るのは当たり前ですが、品質監査・環境監査では工場労働者の人権について、自分の意思で来ていること、ドアに鍵をしないこと、子供が含まれていないこと、など人権に配慮したチェック項目が多数ありました。

A社ベトナム法人が風力発電機ジェネレーター生産開始

2009年10月から弊社作業員によりジェネレーター部品の試作とA社ベトナム人作業者の溶接教育を開始し、試作品の評価に来た調達や検査の担当者から“Artistic”という最大限のお褒めをいただきました。同時に弊社の組立工場を間仕切りしたスペースでジェネレーターの組立実習が始まりました。実習用の主要な部品は日立製作所と中国サプライヤーから調達していて、弊社およびA社ベトナム工場で作製できるようになれば順次ベトナム製に切り替えていく方針のようでした。建設中の工場は当初2009年末完成予定のはずが、中国の建築会社に発注したため、トラブル続きで2010年9月になってようやく完成しました。結局2009年10月から2010年9月まで1年間弊社ベトナム工場の中で作業し、アメリカに向けて15メガワットジェネレーターを出荷していたこととなります。A社ベトナム工場完成後、毎年のように月10セットから月50セットそして月100セットと生産数が増加していくのに合わせて、といっても日本本社は3年間ほど景気の谷底にいたので金融機関のご支援を得て、鑄造工場も建設しレーザーやNC機械・人の増強もしました。また生産機種についても15メガワットから出発し2.9メガワット、3.9メガワットとしだいに大型化していったので、それにつれてファイバーレーザーや大型立型旋盤などを増強しました。そして一歩ずつ増資し拡張した結果、現在では弊社ベトナム工場の人員は450人を超え機械設備も日本の親会社より充実し、売上も利益も本社を超えるぐらいになってきました。

今後の見通し

広大な北米でも陸上に風力発電機ファームの適地が不足してきたので、これからA社は北米向け大型洋上風力発電機5メガワット、12メガワットに方向転換するようです。弊社も大型部品対応の準備中でまた資金が必要です。この山の登りはどこまで続くのかわかりませんがもう少し頑張ってみるつもりです。ちょうど日本政府も洋上風力発電機導入に力を入れているので、協力できるかもしれません。

今振り返ってみると、運に恵まれ、皆様のご支援に恵まれたおかげで、昔の人の言葉は正しかったことになりました。“山高ければ谷深し、谷深ければ山高し”

アフターコロナに向かって、中小企業経営者の皆さんが勇気を奮い立たせて前進していかれることを願っています。

同時に、できることならば深くは深い谷が来ないように願っています。